

## 2019年度 グローバル地域文化学部自己点検評価報告

### I. 教育活動

2019年度に開講した主な科目について記す。なお、2018年度より、2018年度以降生対象の新カリキュラムがスタートしているため、主に新カリキュラムについて記載する。

①必修科目(演習系): 1年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」(旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門セミナー」は2年次対象)では、文献読解、文献検索の方法、批判的思考、問いの立て方、発表の方法など、大学での学びの基礎を鍛えた。また、3年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、各セミナーにおいて基本文献の輪読をさせたり、各自のテーマを掘り下げ、先行研究を批判的に読み込ませたりするなどした。また4年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆のための個別指導を行った。その結果、184名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された(うち2名は春学期末に提出)。

②必修科目(講義系): 1年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を開講した。また、1年次対象として「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門I・II」(旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2年次対象)を開講した。「グローバル地域文化論」と「グローバル・スタディーズ論」は、コース横断科目であり、グローバルなレベルで生じている事象や問題を扱いつつ、グローバル地域文化論に関する基礎的な講義を行った。また、「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門I・II」は、3コースそれぞれに科目を設置し、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げた。

③選択必修科目(スタディ・アブロード科目): 学部独自科目として「海外インターンシップ」を開講し、本年度はオーストラリアのメルボルン(5名)、中国の上海(3名)に学生を派遣した。帰国後、学生たちによる研修成果報告発表会を公開で行なった。また「海外語学プログラム(英語)」を開講し、7名の学生が、ウェスタン・ミシガン大学にて1 Semesterにわたる研修を受け、事後授業では英語による成果発表を行った。

④選択必修科目(講義系):留学経験を将来のキャリアに生かすため、留学経験を踏まえてグローバル人材となるための資質について考え、議論し、キャリア計画を立てることを支援する科目である「留学とキャリア形成」では、13 学生が履修した。

⑤選択科目:選択科目:コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。

⑥その他:海外留学をする学生が計画的に卒業単位を取得できるよう、一昨年度より、1セメスターの登録最高単位数を増やしている。また、外部試験結果による英語科目の単位認定を実施している。

## II. FD 活動

本学部 FD 委員会の活動として、2020 年 1 月に 1 年次生 (2019 年度生) と三年次生 (2017 年度生) に対して学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。なお、今回より委託業者を変更したが、結果のグラフ化により傾向が読み取りやすくなった。その結果、学部専門科目への満足度が高い一方で、外国語 (特に英語) 科目に対する満足度が低いことが明らかになった。この傾向は以前から見られるもので、この点を改善したカリキュラムが 2018 年度より実施されている。今後は、この新カリキュラムの成果を検証し、さらなる改善に繋げたい。

父母懇談会は、2019 年 11 月 9 日 (土) に行った。参加者数 183 名 (139 組)、個別面談 42 組であった。学部学生の学習状況に関して意見交換をした。父母からいただいた貴重なご意見は、今後の学部運営に活かしたい。

## III. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて年 2 回、研究機関誌『GR』(論文、研究ノートなど) を発行した。2019 年 10 月に第 13 号、2020 年 3 月に第 14 号が刊行された。

2019 年 11 月 5 日 (火) には第 7 回グローバル地域文化学会 学術講演会「いま、ここにあるグローバルー日本から考える多文化共生/難民支援」を主催し、「イスラームを人間化するーイギリスのムスリム女性のヒジャブとシティズンシップ」(近畿大学総合社会学部准教授 安達智史) と「難民受け入れの現状と課題ー世界と日本」(一橋大学社会学研究科准教授 橋本直子) というテーマにおいて講演がなされ、学内の参加者を中心に活発な質疑応答が行われた。

また、教員の研究活動の充実と学生会員への教育を兼ねて小規模講演会開催補助制度を設けているが、この制度を活用した小規模講演会として、2019年5月21日(火)に「アリゾナ州エスニック教育禁止法をめぐる訴訟と歴史的記憶をめぐる地域横断的対話のためのGRミニシンポジウム」(講演者:Lorraine K. Bannai、Seattle University School of Law教授・GR学部客員研究員)、2019年6月28日(金)に「グローバル化する時代のウクライナ文化:過去、現代と未来。キエフ公国時代から現代のモダンアートまで」(講演者:オリガ・ホメンコ、キエフ・モヒーラ・アカデミー国立大学人文学部歴史学科准教授・ハーバード大学ウクライナ研究所客員教授)、2019年12月6日(金)に「自主的読書 “Self-Selected Reading”」(講演者:スティーブン・クラッシュン博士、南カルフォルニア大学名誉教授)を開催した。

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本学研究者データベースを参照されたい。

(URL: <http://kenkyudb.doshisha.ac.jp>)

#### IV. 国際交流活動

学部独自でセメスター・プログラム、海外インターンシップ、グローバルキャリア講演会、語学検定試験支援(受験料半額補助)、IELTS 受験対策講座を行っており、学生の留学、語学向上、国際的ビジネスへの就職支援を実施している。

延世大学校人文芸術大学国語国文学科と本学部との学生交換協定により、本学部生2名を派遣し、また先方から1名を受け入れた。

海外からの研究員などの受け入れ:アーモスト大学アーモスト・同志社フェローとしてObayashi Mika (オオバヤシ・ミカ)氏(2019年9月1日~2020年8月31日)を受け入れた。さらに、客員研究員として、Lorraine Bannai氏(2019年4月6日~6月6日)、および木村あや氏(2019年6月3日~2019年7月23日)を受け入れた。

その他の教育活動における国際交流:

- ① 2019年8月23日に、マレーシアイスラム科学大学(<https://www.usim.edu.my>)から当学部への訪問があり、今後の学術交流および学生交流の可能性に関する懇談をした。参加者は以下の通り。

マレーシアイスラム科学大学 (UNIVERSITI SAINS ISLAM MALAYSIA)

Dr. Rafidah Hanim Mokhtar, Associate Professor, Director, Centre for

Community Engagement and Industrial Networking (CCEIN), Lecturer faculty of Medicine.

Dr. Hanim Misbah, Coordinator, Centre for Community Engagement and Industrial Networking (CCEIN), Lecturer Faculty of Economics and Muamalat.

Ph. Marsita Md Nor, Senior Assistant Registrar, Centre for Community Engagement and Industrial Networking (CCEIN)

Dr. Syadiyah Abdul Shukor, Deputy Dean, (Academic & International), Faculty of Economics and Muamalat.

Dr. Norhaziah Nawai, Head of Bachelor of Muamalat Administration, Faculty of Economics and Muamalat.

Dr. Nur Kareelawati Abd Karim, Deputy Dean, (Research and Innovation), Faculty of Leadership and Management.

Dr. Suhailiza Md Hamdani, Head of Bachelor of Da'wah and Islamic Management, Faculty of Leadership and Management.

同志社大学グローバル地域文化学部 (Faculty of Global and Regional Studies)

Minoru SHIMIZU, (Dean, Professor, European Studies Course)

Masumi IZUMI (Director of International Affairs Committee, Professor, Americas Studies Course)

Satoshi MIZUTANI (Professor, European Studies Course)

Masaki MUKAI (Associate Professor, Asia-Pacific Studies Course)

- ② 2019年10月3日にマレーシアイスラム科学大学の学生訪問団が当学部を訪問し、学部学生との交流を行った。交流イベントでは、学生たちがマレーシアおよび日本の食べ物、習慣、衣装、遊びなどを紹介し合い、また本学部にて在籍するマレーシア人留学生が本学部での学びの体験を発表した。教員としては、本学部から和泉真澄教授、王柳蘭准教授、渡辺文助教が、本学高等研究教育院からIyas Salim Abu-Hajjar助教が参加した。参加者はUSIMの学生が約30名、同志社大学の学生が約25名であった。

## V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあった。

- ・清水穰教授：Gallery Pantaloonにおける片桐功敦氏との対談（5月25日）、東京都美術館における伊庭靖子氏との対談（7月20日）、eN arts Kyotoにおける大島成己氏との対談（9月20日）。

・浅羽祐樹教授

講演：日韓文化交流基金「2019年度日韓学術文化交流事業訪日団第1団・第2団」（6月8日）、立命館大学「日韓関係の「法化」—二つの「正義」の狭間で」（7月30日）、内外情勢調査会豊田支部例会「「朝鮮半島の論理」をどう読み解くのか」（9月10日）、同志社大学 大学入学準備講座「「史上最悪の日韓関係」をどのように「読み解く」か」（9月28日）、第55回アカデミア勉強会「「韓国の論理」と日韓関係」（11月19日）、熊日情報文化懇話会「“不合理”な韓国を読み解くリテラシー」（12月17日）、日韓文化交流基金「2019年度韓国青年訪日団第6団」（2020年2月13日）。

テレビ・ラジオ出演：読売テレビ「ウェークアップ」（5月11日、6月29日）、BSフジ「プライムニュース」（6月25日、9月13日、11月12日、12月3日）、J-WAVE「JAM the World」（8月1日）、TBSラジオ「荻上チキ Session-22」（8月2日）、Abema TV「AbemPrime」（8月2、28日）、BSフジ「国際政治チャンネル」（12月20日）、NHK「ニュースウォッチ9」（12月28日）。

- ・殷文怡准教授：日本大学入試センターの教科科目第一委員会の委員。
- ・Esta Tina Ottman 准教授：ドキュメンタリー映画「Ainu Neno An Ainu」の上映初日のイベントの企画。
- ・二村太郎准教授：西陣まちおこしの会による西陣朝市マルシェでのボランティア、役員。
- ・和泉真澄教授：グローバル地域文化学部小規模講演会「アリゾナ州エスニック教育禁止法をめぐる訴訟と歴史的記憶をめぐる地域横断的対話のためのGR ミニシンポジウム」の企画と教育実践の発表（5月21日）、立命館大学国際言語文化研究所連続講座「食と政治—胃袋から支配する」において公開講演「日系アメリカ人戦時収容所における食と支配」（10月25日）、同志社大学社会学部教育文化学会公開シンポジウム「多文化共生社会のこれから—日系カナダ人の教育文化から考える」において講演「日系カナダ人通史を書くに至った経緯と日系人の歴史を書き残す意義」。
- ・柴田修子助教：関東国際高校の生徒のための模擬授業（7月19日）。
- ・Susanna Pavloska 准教授：英語パフォーマンス甲子園での審査員（9月8日）
- ・Andrés Pérez Riobó 助教：花園高等学校での模擬授業。
- ・立林良一准教授：日本スペイン協会の西検委員会委員。
- ・水谷智教授：第7回グローバル地域文化学部学術講演会「いま、ここにあるグローバル—日本から考える多文化共生／難民支援—」の企画、開催（11月5日）。

- ・宇佐見耕一教授：同志社大学でのドラ・バルガス氏講演会「コロンビアにおける人権、若者一元 FARC 分離グループをめぐる状況」の解説、通訳（11月9日）。上智大学でのドラ・バルガス氏講演会「コロンビア边境にみる和平合意後の新展開—エクアドルとの国境地域トゥマコの現状から」の解説、通訳（11月12日）。
- ・稲垣俊史教授：グローバル地域文化学会講演会「Self-Selected Reading」の企画、開催（12月6日）。

## VI. 学生支援活動

①学習支援：外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続き IELTS の集中対策講座・検定試験の団体受験を実施し、留学を卒業要件とする本学部の学生に向けて、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援：「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計7回開催した。第7回目は、電機メーカー、金融、総合商社、IT企業、テレビ局、旅行会社、客室乗務員、サービス業、公務員等さまざまな業種に内定している参加者19名（内、体験談発表者6名）の本学部4回生に就職活動の体験談を語ってもらい、後半の個別質問時間には、就職活動に向けての不安や疑問を直接先輩にぶつけることができた。

第1回 杉本鮎美氏（JTB）「旅行業界で働くとは～旅のチカラを利用したソリューションの創出～」（5月30日）参加人数：44名

第2回 小竹綾華氏（日鉄物産株式会社人事部人材開発課）「商社とは」（6月27日）参加人数：45名

第3回 佐藤忠道氏（サントリー食品インターナショナル）「就活のススメ」（7月11日）参加人数：40名

第4回 小泉初恵氏（一般財団法人水俣病センター相思社）「グローバルに生きる、地域に生きる—水俣から考えたこと」（10月15日）参加人数：16名

第5回 三重綾子氏（日本マクドナルドからインターナルコミュニケーション部・部長）「正解のない時代のキャリア」（11月19日）参加人数：13名

第6回 波多野毅氏（一般社団法人TAO塾・代表）「草根世界人を目指して」（12月3日）参加人数：12名

第7回 本学部学生（2016年度生）「先輩に聞いてみよう！GR学部生の就活体験談」（1月16日）参加人数：前半61名、後半41名

以上